# HP Data Protector 7.00 スタートアップガイド

HP 部品番号: N/A 2012 年 8 月 第 3 版 © Copyright 2006, 2012 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書で取り扱っているコンピュータソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett-Packard Company から使用 許諾を得る必要があります。米国政府の連邦調達規則である FAR 12.211 および 12.212 の規定に従って、コマーシャルコンピュータソフト ウェア、コンピュータソフトウェアドキュメンテーションおよびコマーシャルアイテムのテクニカルデータ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダが提供する標準使用許諾規定に基づいて米国政府に使 用許諾が付与されます。

本書に記載されている内容は事前の通知なしに変更されることがあります。HP製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービス に付属の明示的保証規定に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も当該保証に新たに保証を追加するものではありません。 HPは、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して責任を負いかねます。

インテル ®、Itanium®、Pentium®、Intel Inside®、および Intel Inside ロゴは、米国およびその他の国における Intel Corporation またはその子 会社の商標または登録商標です。

Microsoft®、Windows®、Windows XP®、および Windows NT® は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

Adobe および Acrobat は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Java は、Oracle および/またはその関連会社の登録商標です。

Oracle® は、Oracle Corporation(Redwood City, California)の米国における登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

LiveVault® は、Autonomy Corporation plc の登録商標です。

## 目次

1	インストール	4
	Windows システムへのインストール	4
	前提条件	4
	Cell Manager のインストール	5
	インストールの準備	5
	Data Protector のインストール	6
	Data Protector の実行	6
	クライアントのインストール	6
	前提条件	6
	Cell Manager GUI からのリモートでのインストール	6
	インストール対象のシステム上でのローカルなインストール	7
	UNIX システムへのインストール	7
	Cell Manager のインストール	7
	前提条件 (HP-UX)	7
	前提条件 (Linux)	7
	手順	7
	Data Protector の実行	8
	クライアントのインストール	8
	前提条件	8
	リモートインストール	8
	ローカルインストール	8
	次に行つ手順	9
	ハックアッフテハイスの構成	9
	ノアイルフイノフリナハイスの備成	9
	スタントアロントフィノの愽成	.10
	日期伟风	.10
	ナ期伸风	10
•		.10
2	システムのバックアッフ	12
	基本的なバックアップルーチンのスケジュール設定	.12
3	バックアップからの復元	14
4	詳細情報	15
	Data Protector 関連ドキュメントマップ	15
	ドキュメントマップ	15
		15
	如你表	15
	/3///2/	16
	「1010-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-	17
	問い合せ先	17

## 1インストール

#### 注記:

本ガイドは、完全な Data Protector 製品に適用されます。シングルサーバー版をお持ちの場合、 ここに記載の一部のプラットフォームと機能は適用されません。

このガイドは、Data Protector をすぐにお使いいただけるように作成されています。デフォルトの設定を使用すると、迅速かつ簡単にソフトウェアのインストール、バックアップの作成、および復元を行うことができます。

## Windows システムへのインストール

注記: インストールに関する完全な解説については、Windows インストール用 DVD-ROM の 最上位レベルの Docs ディレクトリに収められている『HP Data Protector インストールおよび ライセンスガイド』を参照してください。

#### 前提条件

- 管理サーバ (Cell Manager):
  - 。 256MB の RAM(512MB 推奨)
  - 190 MB のディスクスペース + バックアップ予定のデータサイズの 2%
- バックアップクライアント (Disk Agent):
  - 。 64 MB RAM (推奨 128 MB)
  - 10 MB のディスクスペース
- デバイスサーバ (Media Agent):
  - 。 64 MB RAM (推奨 128 MB)
  - 20 MB のディスクスペース
- オリジナルユーザーインタフェース (GUI):
  - 256 MB RAM
  - 150 MB のディスクスペース
- Java ユーザーインタフェース (Java GUI):
  - Intel Pentium 1000 MHz または同等品 (推奨 Intel Pentium Ⅳ 2.6 GHz または同等品)
  - 。 512 MB RAM (推奨 1 GB)
  - 40 MB のディスクスペース (推奨 60 MB)
  - Java GUI クライアントの場合、サポートされている Java Runtime Environment (JRE) (詳細は、『HP Data Protector 製品案内、ソフトウェアノートおよびリファレンス』 を参照)
- ガイド
  - PDF 形式のガイド用の 85 MB

1 台のシステムにすべてのコンポーネントをインストールする場合、そのシステムには、ディ スクスペース 305 MB と、最低 256 MB の RAM (推奨 512 MB) が必要です。 これらの数値はコンポーネントのみに関する要件です。オペレーティングシステム、ページン グファイル、またはその他のアプリケーションに割り当てるディスクスペースのサイズは含ま れていません。

#### Cell Manager のインストール

サポートされているプラットフォームの詳細については、最新のサポート一覧 (<u>http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals</u>)を参照してください。

#### インストールの準備

- 1. Data Protector Cell Manager となるシステム上で以下の操作を行います。
  - a. スタンドアロンテープドライブをお使いの場合、テープドライブを Data Protector Cell Manager に接続して、電源を入れます。
  - b. TCP/IP プロトコルとホスト名解決を使用可能にします。
     使用可能かどうかを確認するには、以下の手順に従ってください。
    - 1) コンピュータ名を検索し、名前解決が正しく機能していることを確認します。
      - コマンドプロンプト (Windows プラットフォームの場合) またはターミナル (UNIX システムの場合) を起動します。
      - 以下を実行します: hostname

使用しているコンピュータの名前が表示されます。

- 2) 名前解決と到達性を確認します。
  - 以下を実行します: nslookup ホスト名
  - DNS の逆引きを行うため、次のコマンドを入力します:nslookup IP アド レス

両方のコマンドから同じホスト名とIPアドレスが返された場合、ネットワークは 正しく設定されています。

ネットワークに問題がある場合は、『HP Data Protector トラブルシューティング ガイド』を参照してください。

- c. 固定 IP アドレスを割り当てます。
- Windows テープデバイスとチェンジャドライバを非アクティブ化します (推奨)。これ らのドライバは、このテープデバイスに他のアプリケーションがアクセスしている場 合など、例外的なケース以外は使用しないでください。
- 2. システムに Administrator ユーザー (Windows システムの場合) または root ユーザー (UNIX システムの場合) としてログオンします。
- 3. Data Protector で使用するオペレーティングシステムアカウント (dpadmin など) を個別に 設定します。

Windows システムの場合、必ず以下の条件を満たすようにします。

- 設定したユーザーが Administrators および Backup Operators ユーザーグループのメン バーであること
- そのユーザーに「サービスとしてログオン」権利が付与されていること

これは、必要なサービスを動作させる目的のみに必要なユーザーアカウントで、特定のシ ステムへのログオンには使用されません。

このアカウントは、サーバおよびクライアントのインストール時の Data Protector サービ スアカウントとして使用します。Windows ドメインでは、このユーザーアカウントをプ ライマリドメインコントローラに設定するだけで十分です。

#### Data Protector のインストール

- 1. Windows インストール用 DVD-ROM を挿入して、ウィザードを起動します。
  - 32 ビットシステムの場合:\i386\setup.exe
  - 64 ビットの AMD64/Intel EM64T システムの場合:\x8664\setup.exe
  - 64 ビットの Itanium システムの場合:\ia64\setup.exe
- 2. [Cell Manager] を選択し、デフォルト値を使用してウィザードの指示に従います。
- 3. [アカウント情報] ウィンドウで、インストールの準備手順の手順3で作成したユーザーア カウントのユーザー名とパスワードを入力します。

#### Data Protector の実行

[スタート]→[プログラム]→[HP Data Protector]→[Data Protector Manager] の順に選択します。 詳しくは、DVD-ROM の最上位ディレクトリの Docs ディレクトリに収められているマニュア ルを参照してください。

## クライアントのインストール

<u>http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals</u>を参照して「Data Protector」を検索してください。本リリースでサポートしているプラットホームについては、バージョン 7.00 を選択してください。

#### 前提条件

- Cell Manager がインストールされていること
- 管理者の権限および管理者パスワード
- TCP/IP プロトコルとノード名解決を使用可能にする

RAM およびディスクスペース – 最小値および推奨値

クライアントシステムコンポーネン ト	RAM (MB)	ディスクスペース (MB)
オリジナル GUI	256 <sup>1</sup>	150 <sup>2</sup>
Java GUI <sup>3</sup>	512 (推奨 1,000)	40(60 推奨)
Disk Agent	64 (推奨 128)	10
Media Agent	64 (推奨 128)	20
統合モジュール	64 (推奨 128)	20
英語版マニュアル (ガイド、ヘルプ)	n/a	100

<sup>1</sup> 同時に表示する必要がある要素の数によって異なります。

<sup>2</sup>ページファイルだけは物理メモリの約3倍のサイズまで増加できるようにする必要があります。

<sup>3</sup> Java GUI も最低 Pentium III プロセッサ 1 GH が必要です (Pentium IV 2.6 GHz 推奨)。

#### Cell Manager GUI からのリモートでのインストール

- 1. システムに管理者としてログオンします。
- 2. [スタート]→[プログラム]→[HP Data Protector]→[Data Protector Manager] の順にクリック します。
- 3. [Data Protector Manager] で、[クライアント] コンテキストを選択します。
- 4. Scoping ペインで、[クライアント]を右クリックし、[クライアントの追加]を選択してウィ ザードを起動します。
- 5. ウィザードの指示に従います。

#### インストール対象のシステム上でのローカルなインストール

- 1. システムに管理者としてログオンします。
- 2. 次のコマンドを実行して、Cell Manager システムとクライアントシステム間のネットワー ク接続を確認します。ping CellManagerHostname
- 3. 以下を実行します。
  - 32 ビットシステムの場合:\i386\setup.exe
  - 64 ビットの AMD64/Intel EM64T システムの場合:\x8664\setup.exe
  - 64 ビットの Itanium システムの場合:\ia64\setup.exe
- 4. [クライアント]を選択します。
- 5. ウィザードの指示に従います。
- 6. [Cell Manager システム] ダイアログボックスに、Cell Manager の名前を入力します。

## UNIX システムへのインストール

注記: インストールに関する完全な解説については、UNIX インストール用 DVD-ROM の /DOCS/C ディレクトリに収められている『HP Data Protector インストールおよびライセンス ガイド』を参照してください。

### Cell Manager のインストール

注記: サポート対象のプラットフォームについては、<u>http://support.openview.hp.com/selfsolve/</u> <u>manuals</u> を参照してください。

バックアップデバイスがローカルに接続された Cell Manager を、デフォルト構成でインストールする例を以下に示します。

注記: すべての UNIX プラットフォームで、Java GUI のみをサポートしています。Java GUI には 75~200 MB のディスクスペースが必要です (インストールされているヘルプの言語に よって異なります)。英語の場合、必要なディスクスペースは 75 MB です。Java GUI、Disk Agent、および Media Agent などのディスクスペースを以下に示します。

#### 前提条件 (HP-UX)

- サポートされている Java Runtime Environment (JRE) (詳細は、『HP Data Protector 製品案 内、ソフトウェアノートおよびリファレンス』を参照)
- HP-UX 11.x
- 256MBの RAM(512MB 推奨)
- 350~550 MB のディスクスペース + バックアップ予定のデータサイズの 2%

#### 前提条件 (Linux)

- サポートされている Java Runtime Environment (JRE) (詳細は、『HP Data Protector 製品案 内、ソフトウェアノートおよびリファレンス』を参照)
- 256MBのRAM(512MB推奨)
- 300~550 MB のディスクスペース + バックアップ予定のデータサイズの 2%

#### 手順

#### Data Protector Cell Manager で以下を実行します。

UNIX インストール用 DVD-ROM をマウントポイントにマウントします。以下に例を示します。

mkdir/cdrom

mount/dev/dsk/c0t0d0/cdrom

- 2. omnisetup.sh を実行します。DVD-ROM から以下のコマンドを実行します。
  - cd /cdrom/LOCAL\_INSTALL
    ./omnisetup.sh -CM
- 3. 表示されるプロンプトに従います。

クライアントを Cell Manager からリモートでインストールするか、またはローカルでインストールします。

#### Data Protector の実行

/opt/omni/bin/xomni と入力して Data Protector GUI を起動します。

### クライアントのインストール

<u>http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals</u>を参照して「Data Protector」を検索してください。本リリースでサポートしているプラットホームについては、バージョン 7.00 を選択してください。

#### 前提条件

- 各ターゲットシステムのルート権限
- ksh シェル

#### RAM およびディスクスペース — 最小値および推奨値

クライアントシステムコンポーネン ト	RAM (MB)	ディスクスペース (MB)				
Java GUI	512 (推奨 1,000)	40(60 推奨)				
Disk Agent	64 (推奨 128)	10				
Media Agent	64 (推奨 128)	20				
統合モジュール	64 (推奨 128)	20				
英語版ドキュメント (ガイド、ヘル プ)	n/a	95				

#### リモートインストール

Data Protector ユーザーインタフェースを使って、ソフトウェアコンポーネントをクライアントに配布します。プラットフォームが異なるクライアントへのインストールも可能です。

- 1. /opt/omni/bin/xomni と入力して Data Protector GUI を起動します。
- 2. [Data Protector Manager] で、[クライアント] コンテキストを選択します。
- 3. Scoping ペインで、[クライアント]を右クリックし、[クライアントの追加]を選択してウィ ザードを起動します。
- **4.** ウィザードの指示に従います。ウィザードの各ページの詳細については、『HP Data Protector ヘルプ』を参照してください。

Media Agent のインストール後、構成ファイル (/kernel/drv/st.conf) をチェックします。 詳しくは、『HP Data Protector インストールおよびライセンスガイド』の「Data Protector の インストール」を参照してください。

最後に、バックアップデバイスをシステムに接続します。

ローカルインストール

- 1. UNIX 用インストール DVD-ROM をドライブに挿入します。
- 2. インストール用 DVD-ROM をマウントポイントにマウントします。
- 8 インストール

3. マウントポイント/LOCAL\_INSTALL に移動して、以下のコマンドを実行します。 omnisetup.sh [-source ディレクトリ] [-server サーバ名] [-install コン ポーネントリスト]

Data Protector コンポーネントコードの一覧については、『HP Data Protector インストールおよびライセンスガイド』を参照してください。

4. インストールが完了した場合やクライアントが Data Protector セルにインポートされた場合は、omnisetup によるメッセージが表示されます。CORE および CORE-INTEG コン ポーネントは自動的にインストールされます。

Cell Manager 名を指定していると、クライアントがセルにインポートされます。指定しなかった場合は、Data Protector GUI を使ってクライアントをインポートしてください。

## 次に行う手順

#### これで Data Protector Manager の実行準備ができました。

Data Protector Manager を起動します。Data Protector Manager が開いて、[クライアント] コ ンテキストと [次のステップ] ウィザードが表示されます。



## バックアップデバイスの構成

#### ファイルライブラリデバイスの構成

ここでは、主にデフォルトオプションを使用して、基本的なファイルライブラリデバイスを ローカルドライブまたは共有ドライブに構成する方法について説明します。その他の使用可能 なオプションについては、『HP Data Protector ヘルプ』の索引「バックアップデバイスの構 成」を参照してください。

作業を開始する前に Windows 上で圧縮オプションを無効にします。

- ローカルディスクまたは共有ディスク上にディレクトリを作成します。
   例:C:\FileLibrary
- 2. Data Protector Manager を起動します。
- 3. コンテキストリストから [デバイス/メディア] を選択します。
- [デバイス] を右クリックして、[デバイスの追加] を選択します。デバイスを定義する画面 が表示されます。
- 5. デバイスの詳細を入力します。

デバイス名 例:File Library Device 01					
説明	適宜				
クライアント	このデバイスの接続先クライアントを選択します。				
デバイスの種類	【ファイルライブラリ <b>] を選択します</b> 。				

[次へ] をクリックします。

- 6. 手順1で作成したファイルライブラリデバイスのディレクトリを指定し、[追加]をクリックします。
- 7. [次へ] をクリックします。結果エリアで、メディアの種類として [ファイル] を選択します。
- **8. [**完了] をクリックします。

#### スタンドアロンドライブの構成

自動構成

- 1. コンテキストリストから [デバイス/メディア] を選択します。
- **2.** [デバイス] を右クリックします。
- 3. [デバイスの自動構成]を選択します。
- 4. リストからシステムを選択して、[完了] をクリックします。

デバイスが自動的に構成されます。

#### 手動構成

上記のファイルライブラリデバイスの手順4までを実行します。

1. デバイスの詳細を入力します。

デバイス名	例:LTO-3 Tape Drive
説明	適宜
クライアント	このデバイスの接続先クライアントを選択します。
デバイスの種類	[スタンドアロン] を選択します。

[次へ] をクリックします。

- 2. SCSI アドレスをドロップダウンリストから選択します。[追加] をクリックします。
- 3. [次へ] をクリックします。結果エリアで、適切なメディアの種類 ([LTO] など) を選択します。
- **4. [**完了] をクリックします。

## メディアのフォーマット

Data Protector は、テープが認識できるように個々のテープに独自のヘッダを書き込みます。 この項で説明するとおり、フォーマット操作は手動で行えます。また、自動で行うこともでき ます。Data Protector でテープを使用するには、前もってテープをフォーマットしておく必要 があります。テープを Data Protector で自動的にフォーマットする場合は、この項の手順を省 略してください。

- △ 注意: フォーマットにより、メディア上のデータはすべて削除されます。
  - 1. [デバイス/メディア] コンテキストで、[プール] を展開します。
  - 2. 適切なメディアプールを右クリックします。
  - 3. [フォーマット]を選択します。
  - 4. 結果エリアでドライブを選択して、[次へ] をクリックします。
  - 5. デフォルトの設定値をそのまま使用して、[次へ]をクリックします。
  - 6. [強制操作] と [メディアサイズ] セクションで [デフォルト] を選択した後、[完了] をクリックします。これにより、メディアのフォーマットが実行されます。

## 2システムのバックアップ

バックアップ仕様の作成手順と基本的なバックアップの実行手順を以下に示します。

- 1. コンテキストリストで [バックアップ] をクリックします。
- 2. Scoping ペインで [バックアップ] を展開した後、[バックアップ仕様] をクリックします。
- 3. 結果エリアで [ファイルシステム] を右クリックして、[バックアップの追加] を選択しま す。
- 4. [空のファイルシステムバックアップ] テンプレートを選択して [OK] をクリックします。
- 結果エリアに表示される、バックアップ対象指定の画面でディレクトリ/ファイルをブラ ウズして、バックアップ対象のディレクトリ/ファイルの横にあるチェックボックスを選 択し、[次へ]をクリックします。テープデバイスが接続されていない場合は、サイズの小 さいディレクトリを数個選択するにとどめます。
- デフォルトのバックアップオプションを使用するか、希望のバックアップオプションを選 択して、[次へ]をクリックします。
- 定義済みスケジュールを使用するか、希望するスケジュール用オプションを選択して、[次 へ]をクリックします。設定例については、「基本的なバックアップルーチンのスケジュー ル設定」 (12 ページ) を参照してください。
- 8. 結果エリアにバックアップ仕様のサマリーが表示されます。[次へ]をクリックします。
- 9. バックアップ仕様を保存して後で使用する場合は、[別名で保存]をクリックします。
- 10. バックアップを実行するには、[バックアップ開始]をクリックします。
- 11. [バックアップ開始] ウィンドウが表示され、[OK] をクリックすると、デフォルトのバック アップ仕様でのバックアップが開始されます。
- [バックアップ] ウィンドウに、バックアップセッションの進行状況が表示されます。バックアップが完了した時点で、その旨を知らせるメッセージが [セッション情報] ウィンドウに表示されます。

## 基本的なバックアップルーチンのスケジュール設定

たとえば、毎週金曜日にフルバックアップ、金曜以外の平日には増分バックアップを実行する スケジュールを定義するとします。バックアップはすべて 21 時に実行して、4 週間保持し、 さらに各月のフルバックアップについては 12 か月保持するとします。

Data Protector には、複数の定義済みスケジュールが用意されています。「フルバックアップ (毎週)」が必要とする条件に (毎週金曜日のフルバックアップと金曜以外の平日の 21 時に行う 増分 1 バックアップ) 近いバックアップです。増分 1 バックアップは、前回のフルバックアッ プ以降の変更をすべてバックアップします。

#### スケジュールを定義する手順

- 1. 「手動構成」 (10 ページ) の手順 3 でバックアップ仕様を定義するときに、[スケジュール] タブに移動します。
- 2. [定義済み] をクリックします。
- 3. [毎週 (フル)] を選択し、[OK] をクリックします。
- 4. [追加]をクリックします。
- [繰り返し] で、[月単位] を選択します。
   [時間オプション] で、毎月のバックアップ時刻を選択します。
   [セッションオプション] で、[バックアップ保護] ドロップダウンリストから [週数] を選択し、下部のボックスに週数 (1 年 =52 週) を入力します。

バックアップのスケジュール			
バックアップ(. この さい。	関して希望する	時刻、間隔、維続期	期間、種類を指定してくだ
「繰り返し ○ なし(E) ○ 日数単位(I):	-時間オブション 時間: □ 開始日を	10:45 指定(T)	-
<ul> <li>○ 週単位(K):</li> <li>⑥ 月単位(N):</li> </ul>	2012/09	/03	<b>Y</b>
┌繰り返しオプション(E) ── スケジュール	1 -	₿₿	1 1 月
- セッションオプション バックアップの種類(Y)	7 <i>1</i> 0		
ネットワーク負荷	○ 高(G)	○中(1)	○ 低L)
バックアップ保護(P)	国教		<b>T</b>
0K( <u>0)</u>	中心	セル(C)	ヘルプ(日)

- [OK] をクリックします。
   [適用] をクリックします。

## 3バックアップからの復元

デフォルトでは、バックアップオブジェクトはバックアップ実行時のパスへ復元されます。以下に基本的な復元の実行手順を示します。

- 1. コンテキストリストで[復元]をクリックします。
- 2. [ファイルシステム] をブラウズして、復元対象のクライアントオブジェクトを選択しま す。結果エリアに [復元] ビューが表示されます。
- 3. ディレクトリ/ファイルをブラウズして、復元対象のディレクトリ/ファイルの横にある チェックボックスを選択します。
- **4.** [あて先] タブを選択して、復元先を選択します。何も選択しない場合、ディレクトリ/ファ イルはバックアップ実行時と同じパスに復元されます。
- 5. [復元] ボタンをクリックします。[復元セッションの開始] ウィザードが表示されます。
- 6. ウィザードに表示されるデフォルト設定を使って操作を進めます ([次へ] と[完了] をクリックします)。
- 7. [復元セッションの開始] ウィンドウが表示されて、選択したオブジェクトのシステムへの 復元状況が表示されます。

## 4 詳細情報

## Data Protector 関連ドキュメントマップ

ドキュメントマップ

#### 略称

以下の表は、ドキュメントマップに使用されている略称の説明です。ガイドのタイトルには、 すべて先頭に「HP Data Protector」が付きます。

略称	ガイド
CLI	Command Line Interface Reference
コンセプト	コンセプトガイド
DR	ディザスタリカバリガイド
GS	スタートアップガイド
GRE-SPS	Granular Recovery Extension ユーザーガイド - Microsoft SharePoint Server
GRE-VMware	Granular Recovery Extension User Guide for VMware vSphere
ヘルプ	ヘルプ
IG-IBM	インテグレーションガイド - IBM アプリケーション: Informix、DB2、Lotus Notes/Domino
IG-MS	インテグレーションガイド - Microsoft アプリケーション:SQL Server、SharePoint Server、Exchange Server
IG-O/S	インテグレーションガイド - Oracle、SAP
IG-OMU	Integration Guide for HP Operations Manager for UNIX
IG-OMW	Integration Guide for HP Operations Manager for Windows
lG-Var	インテグレーションガイド - Sybase、Network Node Manager、および Network Data Management Protocol Server
IG-VirtEnv	インテグレーションガイド - 仮想環境
IG-VSS	Integration Guide for Microsoft Volume Shadow Copy Service
Install	インストールおよびライセンスガイド
MO GS	Media Operations Getting Started Guide
MO RN	Media Operations Product Announcements, Software Notes, and References
MO UG	Media Operations User Guide
PA	製品案内、ソフトウェアノートおよびリファレンス
Trouble	トラブルシューティングガイド
ZDB Admin	ZDB 管理者ガイド
ZDB Concept	ZDB コンセプトガイド
ZDB IG	ZDB インテグレーションガイド

対応表

以下の表は、各種情報がどのドキュメントに記載されているかを示したものです。セルが塗り つぶされているドキュメントを最初に参照してください。

									インテグレーションガイド					7	ZDE	3	0	<b>F</b> RI	E	1	٩C	)			
	Help	GS	Concepts	Install	Trouble	DR	PA	SM	0/S	IBM	Var	VSS	VirtEnv	OMU	MMO	Concept	Admin	ß	Exchange	SPS	VMware	GS	DG	PA	CLI
バックアップ	Х	Х	Х					Х	Х	Х	Х	Х	Х			Х	Х	Х							
CLI																									Х
概念/ 手法	х		х					х	х	х	X	х	х	х	Х	х	X	х	х	X	х				
ディザスタリカバリ	Х		Х			Х																			
インストール/ アップグレード	х	X		X			Х							х	X							х	X		
インスタントリカバリ	Х		Х													X	Х	Х							
ライセンス	Х			Х			Х																Х		
制限事項	Х				Х		Х	Х	Х	Х	Х	Х	Х					Х						Х	
新機能	Х						Χ																	Х	
プラニング方法	Х		Х													Х									
手順/ 作業	х			х	x	x		х	х	x	X	x	Х	х	X		X	х	х	X	х		X		
推奨事項			Х				Х									X								Х	
必要条件				Х			Χ	Х	Х	Х	Х	Х	Х	Х	Х							Х	Х	Х	
復元	Х	Х	Х					Х	Х	Х	Х	Х	Х				Х	Х	Х	Х	Х				
サポートされる 構成																х									
トラブルシューティング	Х			Χ	Χ			Х	Х	Χ	Χ	Х	Х	Χ	Χ		Χ	Χ	Х	Χ	Χ				

統合

以下のソフトウェアアプリケーションとの統合に関する詳細については、該当するガイドを参 照してください。

ソフトウェアアプリケーション	ガイド					
HP Network Node Manager (NNM)	lG-Var					
HP Operations Manager	IG-OMU, IG-OMW					
IBM DB2 UDB	IG-IBM					
Informix Server	IG-IBM					
Lotus Notes/Domino Server	IG-IBM					
Media Operations	MO User					
Microsoft Exchange Server	IG-MS、ZDB IG					
Microsoft Hyper-V	IG-VirtEnv					
Microsoft SharePoint Server	IG-MS、ZDB IG、GRE-SPS					
Microsoft SQL Server	IG-MS、ZDB IG					
Microsoft ボリュームシャドウコピーサービス (VSS)	IG-VSS					
Network Data Management Protocol (NDMP) Server	IG-Var					
Oracle Server	IG-O/S、ZDB IG					
SAP MaxDB	IG-O/S					
SAP R/3	IG-O/S、ZDB IG					

ソフトウェアアプリケーション	ガイド
Sybase Server	IG-Var
VMware vSphere	IG-VirtEnv、GRE-VMware

以下のディスクアレイシステムファミリとの統合に関する詳細については、該当するガイドを 参照してください。

ディスクアレイファミリ	ガイド
EMC Symmetrix	すべての ZDB
HP P4000 SAN ソリューション	ZDB コンセプト、ZDB Admin、IG-VSS
HP P6000 EVA ディスクアレイファミリ	すべての ZDB、IG-VSS
HP P9000 XP ディスクアレイファミリ	すべての ZDB、IG-VSS
HP P10000 Storage Systems	ZDB コンセプト、ZDB Admin、IG-VSS

## ライセンス

Data Protector にはインスタントオン・ライセンスが組み込まれており、インストール後 60日間ソフトウェアを使用できます。この期間中に、HP Password Delivery Center (PDC) に恒久パスワードを請求し、インストールすることができます。

必要なライセンスをすべて購入した場合、恒久パスワードを使って、ユーザーのバックアップ 方針に合った Data Protector セルを構成できます。

パスワードを入手するには、以下の HP Password Delivery Center (PDC) の電話相談窓口までご 連絡願います。HP Password Delivery Center (PDC) TEL (03)3227-5264 (受付時間: 午前 9 時 ~ 午後 5 時 30 分) (『HP Data Protector インストールおよびライセンスガイド』マニュアルの 『Data Protector ライセンス』の章に、申請フォーム等の必要な情報が記載されておりますの で、上記窓口へのお電話にあたって、事前にご参照ください。) なお、以下のパスワード配信 用 Web サイトからも、同様に恒久パスワードを入手することが可能です。(英語でのご案内と なっております。) http://www.webware.hp.com

## 問い合せ先

HP Data Protector に関する詳しい情報については、<u>http://www.hp.com/go/dataprotector</u>を ご覧ください。また、最寄りの当社営業所もしくは当社製品の販売会社へご連絡ください。